# 「MATSUE起業エコシステム」基本構想



令和4年3月

松江市

# 目 次

1. 策定背景	P1
2. ヒアリング調査	Р3
3. 先進事例調査	P5
4. 基本構想	P8
5. アクションプラン	P14
6. コミュニティ拠点機能実証調査	P21
7. 目標指標	P23

# 1. 策定背景

## 人口減少のスピードを緩めるため、「選ばれるまち」になることが必要です

#### 松江市の現状とあるべき方向性

### 松江市の 現状

- 人口減少スピードの加速が見込まれます
  - ▶ 松江市の人口は、2000年の21.2万人をピークに減少に転じ、2020年には20.4万人となりました。
  - ▶ 全国の多くの地方都市と同様に、
    人口減少のスピードは加速していく
    と見込まれており、2060年の人口は、15.5万人と推計されています。
- 「選ばれるまち」にならなくてはいけない
  - ▶ 松江市は、2060年の目標人口を18万人に設定しています。
  - ▶ 進学や就職の際に市外・県外に転出する人が多く、人口の減少傾向を緩和するためには若い 世代の人たちから「選ばれるまち」になることが必要だと考えています。

# あるべき方向性

- 「選ばれるまち」になるためには、夢を実現できる場所でありたい
  - ▶ 松江が選ばれるまちとなるためには、「魅力ある」まちであることが必要と考えます。
    - 例えば、若者が夢を持って、松江に「住み続けたい」と思える
    - 例えば、一度松江から出ても、「また戻って来たい」と思える など
  - <del>夢を応援する、夢を実現できる場所でありたい</del>と考えます。

### あらゆることに挑戦したいと思え、実際に行動に移せるための環境が必要です

### 地方創生に向けた提案と新たな取組みの必要性

# 地方創生に向けた提案

松江市総合計画· 総合戦略推進会議

地方創生推進事業部会

- 起業の学び・体験の機会提供やコミュニティ形成に向けた検討を進めてきました
  - ▶ 起業創業の支援充実により、若者が夢や希望を持ち活躍できる社会を形成し、若者の定着促進をめざすことが提案されました。
  - ▶ 学生等を対象に実践的な学びや起業家等との交流機会を提供し、モチベーションを向上させるためのコミュニティ形成に向けた検討を重ねてきました。
- 起業へのハードルは高く、出口の提供が課題です
  - ▶ 様々な取組みを実施していく必要はあるものの、

    <u>起業へのハードルは高い</u>状況に変わりはなく、起業を志した後のステップが確立できておらず、

    受け皿となる出口の支援が不十分になっていました。

### 新たな取組み の必要性

- 起業に限らず、広く挑戦を志す者に対する、出口までの一気通貫の支援が必要と考えます
  - 松江を「魅力のある」まちにするという観点からは、起業に挑戦するだけでなく、広くあらゆることに 挑戦できるまちであるべきと考えます。
  - ▶ そして、実際に最後まで挑戦できるよう、出口まで支援する環境が必要です。

# 2. ヒアリング調査

### ヒアリング 調査の概要

- ヒアリング調査は、以下の仮説のもと実施しました。 (起業家・経営者など4、教育機関8、支援機関10)
  - ① 新たなビジネスモデルに挑戦するにあたり、**ロールモデルとなる人が少ない**のでないか。
  - ② 新たなビジネスモデル創出を支える各種経営リソースを提供できる仕組みや知見が不足しているのではないか。
  - ③ ロールモデル、チャレンジャー、支援者、地元企業などが出会うきっかけがないのではないか。

#### 本市の強みに関する主な意見

- ロールモデルが少ないのではなく、「知らない」。
- ロールモデルは少ないけれども存在している。しかし見えていない。
- 自分の話を聞き続けてくれる先輩や仲間がいたことが今につながっている。
- 経洗塾(松江商工会議所主催の起業家支援プログラム)に 参加して、他の世界のことだと思っていたことが、自分事になった。

#### 本市の弱みに関する主な意見

- 支援を「提供する側がバラバラである」ため、一気通貫の支援ができる場が必要。
- 地域のステークホルダーが連携して一貫して支援システムを構築することが必要。
- 安定志向が強く、手堅い就職先を選ぶ風潮がある。
- 新しいことをやることに対して、非常に否定的なところがある。
- 新たなビジネスに対する「着眼点」が支援者側としても弱い。
- ビジネスの将来性の見極めやアクセラレーションノウハウを持っている人が少ない。
- 起業家に多様な選択肢を与えられるような支援側のトレーニングが必要。
- アイデアややりたい気持ちをもつ学生はいるが、その先につながっていない。

#### 強み

- ロールモデルは存在している (ただし、知る機会がない)
- 地域に根差した起業家支援プログラムが存在している

#### 弱み

- 支援者の提供メニューが分散し ている
- チャレンジする機運が低い
- 支援者側に新ビジネスを育てる ノウハウが不足している
- チャレンジ意欲が芽生えても、その先につながらない

#### 強化すべき点

- ▶ 身近なロールモデルと出会い、交流する機会の提供
- ▶ 既存の起業家支援プログラムとの連携強化

#### 改善すべき点

- ▶ 支援者間をつなぐことによる一気通貫で有機的な支援の提供
- ▶ アントレプレナーシップを育 てる教育機会の提供
- ▶ 支援者側に対する教育の 実施
- ▶ チャレンジしたいと思った際 に立ち寄れる場の提供

### ヒアリング調査における属性別の主な意見

#### カルチャー

- ■「地方創生」といわれると、気持ちが萎える。
- アントレプレナー教育などはあるが、ビジネスコンテスト 等と接続されておらず、**分散している印象**。



#### ノウハウ カルチャー

■ エクイティファイナンス(株式発行による資金調達) は、他の世界のことだと思っていたが、経洗塾に参加して、実は**自分たちも目指せる**ものだと知った。



#### ノウハウ

- 支援サイドの産業メカニズムへの理解が大事。
- 相談を受けたときに、<u>起業家に多様な選択肢を与</u> えられるような支援側のトレーニングが必要。



#### コミュニティ

- 自分で選んで成長できる、<u>ロールプレイングしていけるような環境</u>も必要。
- 自分の**話を聞き続けてくれる先輩や仲間**がいたこと が今につながっている。



#### カルチャー

- 「**ゆる起業」のようなお試し起業という選択肢**がある ことも良いかもしれない。
- ■「知る」から「挑戦する」へのハードルが高い。

#### コミュニティ

- 新しいビジネスは一人ではできない。<u>チームビルドを</u> **想定した出会いの場・機能**があるとよい。
- <u>メンター制度のようなサポート体制・機能</u>をつくっておくとよい。



企業

#### ノウハウ

- 新たなビジネスに対する「着眼点」が支援者側として も弱いと思っている。
- **投資という考え方を根付かせる**のは大事だと思う。

支援機関

#### ノウハウ

- 一番の課題は「提供する側がバラバラである」こと。
- 起業したいと思ったときに<u>ここに行けばよいと思える</u> 場所が必要。



金融機関

#### ノウハウ カルチャー

- 自分の進路との結び付きのイメージが持ちづらい。
- 「チャレンジ」だけではダメで、<u>お金を回してビジネスに</u> するノウハウを教えないといけない。



高校

#### カルチャー

- <u>同世代のロールモデルの姿を見せる</u>ことが大事。
- <u>ジョブシャドウ</u> (生徒が社員に影のようについて回り 仕事を体感すること) の起業家版は良さそう。



財団法人



# 3. 先進事例調査

### 先進事例 調査の概要

- 拠点として必要と考えられる機能案をもとに、先進自治体に対してヒアリングを実施いたしました。機能案は以下の通りです。
  - ① コミュニティ形成・活性化のための取組み(Ex.コミュニティマネージャーの配置、交流イベントの開催など)
  - ② 自治体が関与したソフトコンテンツの企画・運営(Ex.官民で連携した研修・イベントの企画など)
  - ③ いろんな属性の方々が参画できる仕組み(Ex.教育機関との連携、地元企業との連携など)

自治体	対象施設	運営主体	概要	
富山県富山市	スケッチラボ	市、 とやま未来共創 チーム	交流機能のみに特化し、運営メンバーには様々な専門性やネットワークを有する人材を配置。学生研究員制度を通じた教育機関との連携、人材育成も積極的に行っている。	
長野県 塩尻市	スナバ	市、塩尻市振興公社	立ち上げ初期の運営支援業者からのノウハウを蓄積・内製化。 会員一人ひとりの課題を運営メンバー全員で共有し、事業前進 に向けた企画を行い、また来たいと思わせる場を作っている。	
福岡県 北九州市	コンパス小倉	Fabbit共同事業体 (指定管理)	テレワークセンターの指定管理更新に合わせ、創業支援のハブ施設機能を追加。施設内にインキュベーションマネージャーが常駐し、 士業と連携した創業相談や事業拡大支援を行う。	
岩手県盛岡市	産業支援センター	市、FVC Tohoku (指定管理)	立ち上げ時に起業家支援の要として招聘した人物の思考をくむ 形でプログラムを実施。現在は、インキュベーションマネジャーにFVC Tohokuの社員を配置し、利用者・市内事業者の相談に対応。	
福岡県福岡市	Fukuoka Growth Next	市、福岡地所、 さくらインターネット、 GMOペパボ	既存のコミュニティイベントや起業相談窓口の設置・運営により、 徐々に起業文化を形成。その後設立した拠点には入居要件を 設定し、創業前から創業初期(シード期~アーリー期)まで、 入居企業の成長段階に応じた伴走支援を行う。	

#### 参考にすべき点

- ▶ 学生と共創したプログラム設計
- ▶ チームで醸成するコ ミュニティ構築
- > 士業との連携
- ▶コア人材の招聘
- > ソフトコンテンツから の出発
- → コミュニティメンバー向けの伴走支援

### 主な先進自治体の取組み①

富山市・Sketch Lab(スケッチラボ)の取組み

- 利用者が立場や世代を越えて対話を重ね、未来のビジョンを共有し、新たなビジネスの創出や暮らしの課題の解決にチャレンジすることを目的とする。
- 交流機能に特化しており、運営チームには様々な専門性やネット ワークを有する人材を配置している。また、通常の会員制度とは別 に、大学生等を中心とした学生研究員制度を構築することで、学 生が主体となった施設運営やイベントの企画・運営を行っている。
- 官民連携組織として「とやま未来共創チーム」を設立し、市からの 負担金により施設を運営する。



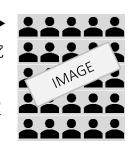
**⋖** Sketch Lab (スケッチラボ)

会員制の交流・共創スペース として、交流イベントやビジネスコ ンペ、アイデアソン・ハッカソンなど の各種プログラムを開催する。



学生研究員制度 ▶

数十名の学生研究 員に加え、運営スタッ フは4人中3人を学生 が占めるなど、施設運 営にも関与する。



塩尻市・スナバの取組み

- 事業を生み出し、育てるための3つの機能(コワーキング、アクセラレーター、リビングラボ)を備えたシビック・イノベーション(=「市民の革新」という意味の造語)拠点。
- 施設の立ち上げ初期に運営支援業者からノウハウを提供してもらい、その後に内製化。会員の加入時には、一人ひとりの目的や課題意識、障壁等について入念なヒアリングを実施し、それを運営チーム全員で共有することで、適切なコーディネートにつなげている。
- 一般財団法人塩尻市振興公社が、市からの負担金をもとに施設を管理し、市は運営チームの中核として、事業運営をリードする。



#### **⋖** スナバ

「公園の砂場」に由来し、行けば誰かがいて、一緒になって形のないものから形を作ったり、崩したりする、そんな場所にしたいとの思いが込められている。

#### ▼ 運営チームの構成



市役所職員、地域おこし協力隊、外部委託者、 振興公社、サポートメンバー、学生インターンから構成 され、チーム一体となったコミュニティ運営を行う。



### 主な先進自治体の取組み②

盛岡市・産業支援センターの取組み

- 新たに創業しようとする方や創業後、間もない方を支援する施設 で、市内事業者の事業活動も支援する。
- 平成14年に拠点を設立した際に、コアとなる人材を起業家塾の 講師およびインキュベーションマネジャーとして招聘し、プログラムを設 計した。 以降、その流れをくむ形で起業家塾等を実施している。
- FVC Tohoku株式会社が指定管理者として施設を運営する。また、同社・盛岡信用金庫・近隣市町と共同でファンドも組成している。



#### ◀ 盛岡市産業支援センター

FVC Tohoku株式会社のインキュベーションマネジャーが施設内に常駐し、創業や起業を検討している方の相談に乗っている。

#### もりおかSDGsファンドの座組 ▶

FVC Tohoku株式会社、盛岡 信用金庫、盛岡市、滝沢市、矢 巾町、紫波町にて運営している。

参 Morioka Industrial Support Center 盛岡市産業支援センター



福岡市・Fukuoka Growth Next の取組み

- 豊かな未来を創造するアイデアを持ったスタートアップ企業を支援 する施設。創業支援に特化した官民共働型の環境でさまざまな アイデアが行き交い、形となることを目指す。
- 2011年から実施しているコミュニティイベントを出発点とし、起業相 談窓口などでの支援を通じて徐々に起業家文化を形成。その後、 市政でのリーダーシップも背景に2017年に拠点を整備した。
- 施設は福岡市のほか、福岡地所株式会社、さくらインターネット 株式会社、GMOペパボ株式会社の4者共同で運営している。



#### ◀ Fukuoka Growth Next

市街地中心部の小学校跡地を活用。施設の入居条件も設定し、入居者向けの伴走支援を実施する。

#### ▼ 施設の運営体制

4 者それぞれが強みを活かしながら、スタートアップを支援したいとの共通の思いのもとに運営している。











# 4. 基本構想

「チャレンジャーファースト」で「ノウハウ」×「コミュニティ」×「カルチャー」を提供する

「MATSUE起業エコシステム」を形成して

松江ならではの起業・新ビジネス創出の好循環を実現します

目指す姿

2030年

松江発 産学官金連携モデルによる 起業・新ビジネス創出の好循環

~起業家精神をもつチャレンジャーが本気で挑戦できる環境をつくる~

提供するもの

MATSUE 起業 エコシステム 1

本気のチャレンジャーのための出口を意識した実践ノウハウの提供

:志の高いチャレンジャーに対して、産学官金が連携し、一気通貫で最後まで伴走支援します



2

あらゆるチャレンジャーのためのコミュニティの提供

:気軽に参加できるコミュニティ、はじめの一歩の案内、サポーターとの出会いの場を提供します



3

<del>チャレンジャーを生み出す<mark>カルチャーの醸成</mark></del>

: チャレンジすることが当たり前になるよう、学びの機会の提供、機運醸成や環境整備を行います



基本姿勢

一人ひとりの新たなチャレンジを全力で後押しする (<mark>"チャレンジャーファースト"</mark>)



ここでいう「チャレンジ」とは、ビジネス領域での挑戦のことを指します。 起業したい、第二創業したい、新規事業を始めたい、など松江での「新たな挑戦」を全力でサポートします。

# (1) チャレンジャーと応援者・理解者の後押し

- ▶ チャレンジャーファーストで起業家予備軍・新規起業家・第二創業者・地元企業に寄り添って応援します
- ▶ チャレンジャー応援する応援者・理解者の活動も後押しします

分類

エコシステムにおいて期待する役割



# 起業家予備軍(高校生・大学生等)

#### ● スタートアップ型の思考を持つ起業家予備軍

- ▶ 地域課題解決のためにアイデアを提供する
- ▶ 学生自らの起業はもちろんのこと、社会人で新ビジネスを志す者への刺激となることも期待できる

### 新規起業家

- <u>スタートアップ型の思考を持つ起業家・起業家予備軍</u>(市外で起業し市内の地域課題解消のために地域のプレーヤーと連携して事業展開を志す起業家や松江に拠点を移したいという起業家も含む)
  - ▶ 地域になかった新たな分野のビジネス又は既存分野における新たなビジネスモデルで地域産業を活性化
  - ▶ ソーシャルグッドの事業化による地域課題解消促進も期待できる



#### 第二創業者 (経営者·経営者予備軍)

- 既存中小企業のうち、事業成長に向けたビジネスモデルの変更を志向する経営者・経営者予備軍
  - ▶ 地域に根付く既存産業・企業からも新たなビジネスモデルや新規事業が生まれることで、地域産業を活性化
  - ➤ 新規起業家と第二創業者が同じ志で交流することで産業界の風通しも担保
  - ▶ 事業承継を見据えたビジネスモデルの変更等を志向する経営者・経営者予備軍も含む

#### 地元企業 (新規事業担当者・ 社内起業家)

- 市内の官民組織で働く従業員・職員のうち、新規事業担当者・社内起業家・それらの予備軍
  - ▶ 支援サイドに属する行政機関、金融機関、地場企業等の組織においても起業家精神が浸透しイノベーティブな活動が増えることで、新規起業家や第二創業者にとっての活躍機会拡大(例:業務提携、融資)
  - ▶ 目的に応じて、支援サイドの立場となり起業家等の新ビジネス創出をサポートする



応援者·理解者

- 当事者としてではないものの、上記学生や社会人を応援したいと考える方々
  - プロボノなど、本業ではなくボランティアとして、それぞれの専門領域からのサポートを提供する
  - ▶ 直接のサポートではなくとも、チャレンジャーが頑張れる雰囲気作りを行う

# (2) ノウハウ・コミュニティ・カルチャーの提供

▶現状と目指す姿のギャップを埋める「ノウハウ」「コミュニティ」「カルチャー」を提供します

目指す 姿

2030年

### 松江発 産学官金連携モデルによる 起業・新ビジネス創出の好循環

~起業家精神をもつチャレンジャーが本気で挑戦できる環境をつくる~



支援機関がそれぞれ独自で支援を行っており、 一気通貫の支援が提供できていない

ロールモデルと出会う機会がなく、チャレンジしたいと思ったときに立ち寄れるコミュニティがない

アントレプレナーシップやその機運が醸成されていない、応援する風潮があまりない

### 提供するもの

本気のチャレンジャーのための出口を意識した実践ノウハウの提供

あらゆるチャレンジャーのための コミュニティの提供

チャレンジャーを生み出す**カルチャー**の醸成

現状

#### ヒアリング調査結果

強化すべき点	改善すべき点
ロールモデルとの接点	一気通貫の支援の提供
既存支援との連携強化	アントレプレナーシップ教育
	支援者教育
	コミュニティの提供

#### 先進事例調査結果

参考にすべき点			
学生と共創したプログラム	コア人材の招聘		
チームでのコミュニティ運営	ソフトコンテンツからの出発		
士業との連携	メンバー向けの伴走支援		

## (3) 6つの機能

▶「ノウハウ」「コミュニティ」「カルチャー」を提供するため「新ビジネス創出機能」「ファイナンス機能」「ハブ」「コミュニティ」「アントレプレナーシップ教育」「ブランディグ」の6つの機能を備えます

	提供するもの		どのように提供するか		機能
ナケのエリンパーのもりの	本気のチャレンジャーのための	<b></b>	既存の支援メニューも活用・強化し、出口までの道筋を創る	•	新ビジネス創出支援機能
ノウハウ	出口を意識した 実践ノウハウの提供	<b>&gt;</b>	チャレンジャーへの金融面のサポートを実施し、出口を創る	•	ファイナンス機能
	天成アグバブの症点	<b>&gt;</b>	松江市内にないものは市外から積極的に取り入れる	<b></b>	ハブ機能
コミュ ニティ	あらゆるチャレンジャーのための コミュニティの提供	<b>&gt;</b>	リアルで集まる場をつくり、活性化のための仕組みを構築する	<b>&gt;</b>	コミュニティ機能
カル	チャレンジャーを生み出す	<b></b>	当事者の機運醸成、教育を実施する		アントレプレナーシップ教育機能
チャー	カルチャーの醸成	<b>&gt;</b>	当事者を取り巻く者の意識醸成、周知・啓発を行う	<b>&gt;</b>	ブランディング機能



## (4) 産学官金連携

- ▶「経済団体」「メディア」「先輩起業家・支援者等」「松江市」「支援機関」「金融機関」「教育機関」が連携します
- ▶それぞれが持つノウハウを提供しあいながら「チャレンジャー」に寄り添った支援を行います







経済団体 メディア 先輩起業家 支援者 等

- ■期待する役割
- ・起業等にチャレンジする人を 「大きくする」ための支援の提供

Ex. 士業等による専門的な支援、 メディアによる情報発信





松江市 支援機関

- ■期待する役割
- ・起業等にチャレンジする人が 「一歩踏み出す」ための連携した 支援の実施

Ex. 産学官金が連携するための コンソーシアムの設立

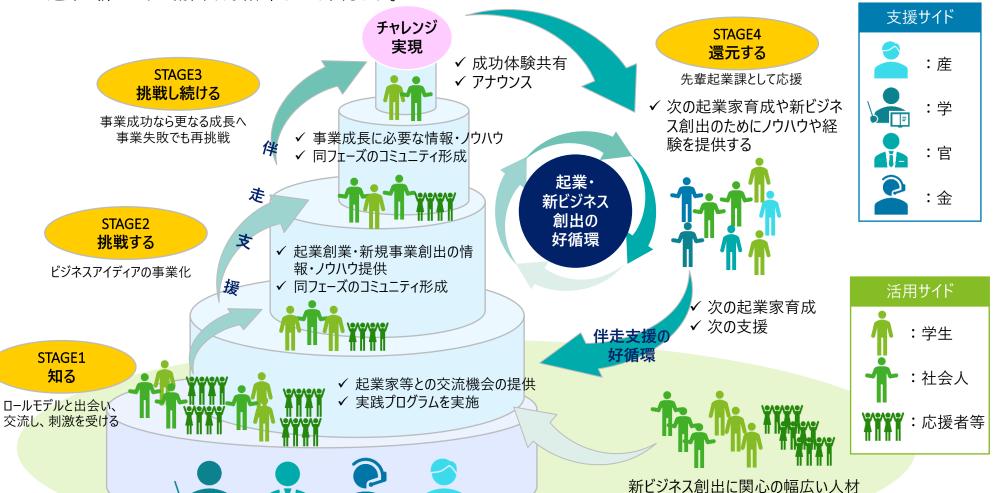


# (5) 伴走支援と起業・新ビジネスの好循環

▶アイディア段階から起業・新ビジネスの創出・成長まで、ステージに応じた伴走支援を行います

産・官・学・金が連携して、エコシステムの土台となる

▶チャレンジ実現の成功体験を活用サイド・支援サイドで共有・アナウンスし、次のチャレンジャー創出や支援につなげ、 起業・新ビジネス創出の好循環を生み出します。



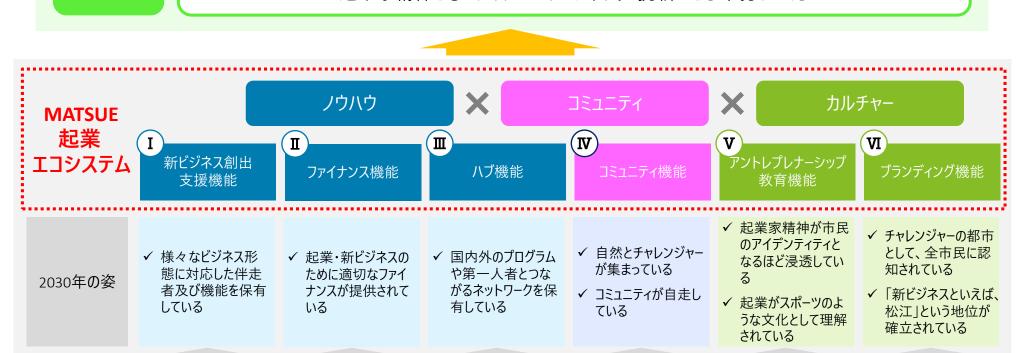
# 5. アクションプラン (2022年度から2024年度まで)

## 2022年度から2024年度のアクションプランに取り組みます

2030年 目指す姿

### 松江発 産学官金連携モデルによる 新ビジネス創出の好循環

~起業家精神をもつチャレンジャーが本気で挑戦できる環境をつくる~



アクションプラン (2022~2024)

- 支援メニューの連携
- 支援者向け教育 の実施
- ファイナンスの仕組 みの構築
- 既存の市外のネットワークを活用した プログラムの提供
- 既存の市外のネットワークを活用した 人的つながりの提供
- ) コミュニティ機能の 整備
- コミュニティ運営 チームの組成
- 身近なロールモデ ルを知るイベントの 開催
- 教育機関と連携したアントレプレナーシップ教育の実施
- ◆ 社会人向けのリカレント教育プログラムの実施
- トッププロモーションの実施
- 地域メディアとの 連携

# ■アクションプラン(2022~2024) ~ノウハウ~

### I 新ビジネス創出支援機能

チャレンジャーの新しい挑戦を後押しするためには、支援サイドのノウハウ提供が重要となります。そのため、支援者自身の教育に加え、支援者間で連携した一気通貫プログラムの実施に向けた取組を実施します。

アクション	概要	今後3年間の取組
支援メニューの 連携	✓ 各支援機関で既に実施している支援メニューや取組みを有機的につなぎ合わせ、かつ、一層強化することで、チャレンジャー向けに一気通貫のプログラムを提供できるよう、関係者間と連携してプログラムの企画・運営を行います。	<ul><li>■ 支援機関等とのコンソーシアムを設置し、提供可能な支援メニューの整理</li><li>■ 支援メニューの一覧化及び活用サイドへの発信機能整備</li><li>■ 各種メニューを連携させて支援プログラムを設計</li></ul>
支援者向け教 育の実施	✓ 支援者向けにスタートアップ・ベンチャー領域でのリテラシーの 更なる向上のため、起業等に向けた各段階における実践 的な支援内容(アクセラレーション、ファイナンス手法等)を 学ぶ機会を提供します	<ul><li>■ 関係者向けインプットセミナー</li><li>■ アウトプットワークショップ、ビジネスプランコンテストのメンターとして協力してもらう</li><li>■ 各自活用サイドへ新ビジネス支援スタート</li></ul>

### Ⅱ ファイナンス機能

チャレンジャーが挑戦していくためには、金融面のサポートが欠かせません。そのため、松江市内にいながらにして、融資だけでなく出資なども含め新ビジネスの方向性に合った適切な資金提供環境の構築に向けた取組を実施します。

アクション	概要	今後3年間の取組
ファイナンスの仕組みの構築	✓ 地域の金融機関はもとより、域内だけではリソース等が不足している場合には、域外のベンチャーキャピタル等の金融機関とも連携することで、松江市にいながらでも、新たな挑戦ができるための資金提供体制を整備します。	<ul><li>■ 各金融機関や連携可能な資金提供者(VCなど)の役割についての洗い出し及び整理</li><li>■ 地域ファンド含めベンチャー支援に適当なファイナンスの仕組みを検討する</li><li>■ 上記仕組みの具体的な構築を進める</li></ul>

# ■アクションプラン(2022~2024)~ノウハウ~

### Ⅲ ハブ機能

松江でチャレンジしようと思えるためには、松江にいながらして、挑戦ができる環境の整備が必要です。そのため、既に松江にあり、活用できる機能は活用するのはもちろんのこと、現時点において松江にないものに関しては、自治体ベースで横の連携を行うなどして、ネットワークを拡張・活用する取組を実施します。

アクション	概要	今後3年間の取組
既存の市外の ネットワークを活 用したプログラム の提供	✓ チャレンジャーがいつでも、居場所に関係なく、国内外にすで に存在するネットワークに接続でき、それらのプログラムを受 講できるよう、自治体単位での連携を広げる取組を実施し ていきます。	<ul><li>■ 連携可能な団体およびプログラムの整理</li><li>■ 上記で整理した内容を踏まえ、具体的な連携を実施</li><li>■ 上記の実績を踏まえ、共催プログラム等を実施</li></ul>
既存の市外の ネットワークを活 用した人的つな がりの提供	✓ 士業も含む様々な専門家からのアドバイスについて、居場所に関係なく享受できるよう、国内外でのネットワークを形成・拡張し、それらを活用していきます。その際、コミュニティマネージャーとも連携することで、ファイナンスも含めた幅広いノウハウを蓄積・提供していけるよう、多面的な人的つながりの形成に取り組みます。	<ul><li>■ 必要な専門家(士業)の洗い出しと巻き込み施策の検討 (オンラインツールやワーケーションの活用など)</li><li>■ 専門家による支援やセミナーの開催(スポット開催)</li><li>■ 専門家による支援メニューの提供(オンラインも含む)</li></ul>

# ■アクションプラン(2022~2024)~コミュニティ~

### Ⅳ コミュニティ機能

チャレンジャーがいつでも気軽に参加できるコミュニティを形成するためには、リアル・オンラインを含め、交流するための機能の整備が重要と考えます。そのため、コミュニティ活性化のための専任人材の配置やイベント開催等の取組を実施します。

アクション	概要	今後3年間の取組
コミュニティ機能の整備	✓ 遊休施設等も活用しながら、コミュニティに必要な機能等の 検討・整理することを通じて、チャレンジャーのニーズに即した 機能を整備します。	<ul> <li>■ 実証事業の内容を踏まえ、効果がありそうだと判断した施策を実施する</li> <li>■ 上記で効果がみられた施策に加え、活用サイドのニーズを踏まえた施策を実施する</li> <li>■ 活用サイドが主催するようなプログラムなどを実施する</li> <li>■ チャレンジャー、支援機関、コミュニティ事務局それぞれの取り組みを円滑にするWebプラットフォームの構築</li> </ul>
コミュニティ運営チームの組成	✓ 拠点を訪問するチャレンジャーが、いつでも、どんなことでも、 気軽に相談できるよう、コミュニティ運営チームを配置します。 その際、コーディネーターを通じた人材のマッチング等も行うことで、コミュニティ内での有機的なつながりを提供します。	<ul> <li>■ 実証事業の内容踏まえ、適当なコミュニティ運営チーム(学生含む)の組成を図る</li> <li>■ コミュニティ運営スタッフが市域内の活用サイド・支援サイドの関係者ほぼすべてと繋がっている</li> <li>■ コミュニティ運営スタッフが市域外の本エコシステム関係者とほぼ全て繋がっている</li> </ul>
身近なロールモデ ルを知るイベント の開催	✓ チャレンジャー一人ひとりが自らもチャレンジできると思えるよう、身近なロールモデルを知り・交流するためのイベントを実施します。その際、世代別のイベントを開催するなど、同世代のロールモデルから刺激を受ける機会を提供します。	■ 年間4回程度実施する ■ SNSやウェブページに記事等を掲載する ■ ロールモデルとなる人に気軽に相談できる環境を作る

# ■アクションプラン (2022~2024) ~カルチャー~

### ∇ アントレプレナーシップ教育機能

松江でチャレンジしようと思えるためには、小・中・高・大学時代からの起業家精神の醸成や、社会に一度出てからの学び直しの機会が必要です。そのため、それぞれの対象者に応じた、アントレプレナーシップ教育を実施することで、誰もがチャレンジする意欲をもてるようになる取組を実施します。

アクション	概要	今後3年間の取組
教育機関と連 携したアントレプ レナーシップ教育 の実施	✓ 高等教育機関を中心に、学生自身がアイデアを考え、それをビジネスへと発展させるための実践的な学びの機会を提供します。その際、公開授業等を活用して、義務教育とも連携することで、発達段階に応じたアントレプレナーシップの醸成を行います。また、前述のコミュニティ機能とも連携することで、学生や教職員からの相談に応じ、その次のチャレンジにつながりやすい環境を整備します。	<ul> <li>■ 各教育機関で実施されるプログラムとコミュニティを連携させる</li> <li>■ 上記の実績を基に、各教育機関との連携を深める</li> <li>■ 各教育機関からのアントレプレナー教育に関する相談を受けられる体制を構築する</li> </ul>
社会人向けのリカレント教育プログラムの実施	✓ 社会人が働きながらでも、無理なくアントレプレナーシップ教育を受けられるよう、それぞれの働き方に応じた時間帯や受講方法を選べる、ビジネススクール形式のプログラムを関係機関と連携しながら、企画・運営を行います。	<ul><li>基本的なビジネススキルを身につけるセミナー等を実施する</li><li>オンラインアーカイブでいつでもセミナーを見れるような体制にする</li><li>プログラム参加者向けのビジネスプランコンテスト等を実施する</li></ul>

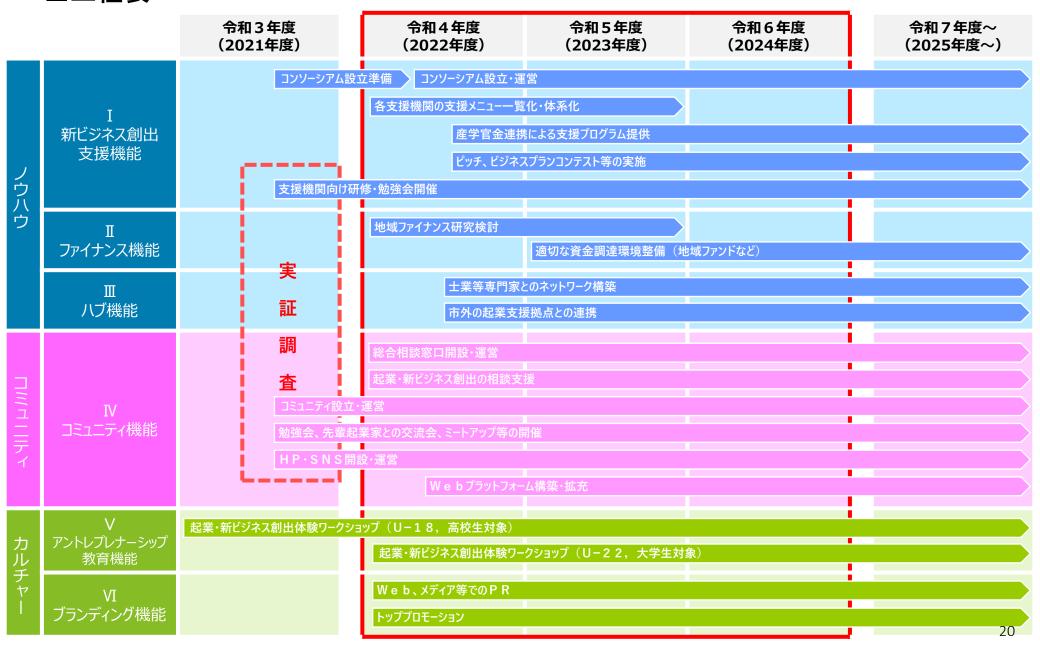
# ■アクションプラン(2022~2024)~カルチャー~

### VI ブランディング機能

松江市民はもちろんのこと、松江市を一度出ていった方々をはじめ、広く松江での取組みに関心を持ってもらうためには、積極的なブランディングが必要です。そのため、市長からのトッププロモーションをはじめ、SNSや地域メディア等、様々なチャネルを活用したPR・広報活動の取組を実施します。

アクション	概要	今後3年間の取組
トッププロモー ションの実施	✓ 市内外へのブランディングとして、発信力のある市長から、要所要所で本取組みを発信し、実際にチャレンジャーが活躍している姿をメディアに露出する機会を増やし、不特定多数の人の目に触れる機会を提供します。	<ul> <li>■ 市内及び市外に対して、本エコシステムに関する発信を積極的に行う</li> <li>■ 上記の実績を踏まえてPR動画等を作成し、SNSやホームページ等での発信も加えて行う</li> <li>■ 市域外の関連イベント等に市長が積極的に参加し(招聘され)、起業家を本気で応援する自治体としての知名度を向上させる</li> </ul>
地域メディアとの連携	✓ 主に市内向けのブランディングとして、市民により密接で、生の情報を扱う地域メディアと連携することで、身近な人が チャレンジしている姿を知る機会を提供します。	<ul><li>■ 地域メディアで本取組に関する記事や発信を行う</li><li>■ 個人の起業家に焦点を当てた特集等を組むようにする</li><li>■ 起業家支援として、本事業に関連する内容が定期的に発信されている</li></ul>

## ■工程表



# 6. コミュニティ拠点機能実証調査

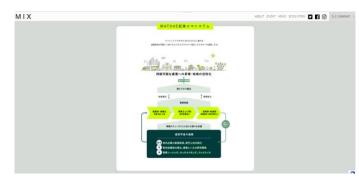
### 実証調査 の概要

- アクションプランに掲げる「**IV** コミュニティ機能」の一部について、先行的にコミュニティ拠点機能実証調査を行った。
  - ① パブリックコミュニティ「M I X」の創設(R3.12.28)
  - ② H P・S N S の開設・運営 (R3.12.28)
  - ③ 勉強会、交流イベントの開催 (R4.1.21~)
    - ※新型コロナウイルス感染症拡大のため一部はオンラインへ変更 or 中止となったイベントあり

イベント	テーマ	内容	当日の様子	参加 人数	動画 再生回数
R4.1.21  MIX キックオフイベント  PROSESSENTI  FORTH OF A TIME FROM  MATSUE 起業エコシステム構想	MATSUE 起業 エコシステム 構想	・コミュニティ活動に様々なシーンで関わっていただく事業者の紹介・新ビジネス創出に取り組む企業と松江市長とのフリートーク		現地 1 4 名 オンライン 1 4 名	197回 R4.3.24 時点
R4.3.4  MIX 参 地域をアップデートする 教育革命 ~VUCA開代に対する場合によっ 2023 4 18:30~ 金銭:最 SEH servers オンライン配信あり	地域に 開かれた 教育とは	・愛媛発プログラミング教育を展開する企業の経営者と、高校を核として地域づくりを推進する団体の代表を交え「地域の教育のこれから」についてフリートーク		現地 2 1 名 オンライン 2 1 名	106回 R4.3.24 時点
R4.3.5  MIX ⇒  地域密着型スーパーの  チャレンジ  ¬աは3日7月間のあまのありカップで  2022 3 9 ® 18:30 ~  会場点 SEN assesses	withコロナ 時代の 小売業の あり方	・松江市を中心にスーパーマーケットを展開する企業の経営者を招き、コロナ感染症によるパンデミックの影響下での地元の小売店のチャレンジについてフリートーク		現地 2 1 名 オンライン 1 5 名	<b>5 0</b> 回 R4.3.24 時点







▲ MIXホームページ (R3.12.28~)

# (1) リアルに会えるコミュニティ拠点は必要。イベント終了後の情報交換、名刺交換などの交流はオフラインにないものがある。

- (2) 市内にある他の起業支援の拠点との連携が必要。
- (3) オンライン上拠点としてHP・SNSは効果的。多様な情報発信方法で、 コロナ禍での対応、現地参加に躊躇する関心層への訴求可能。
- (4) スタッフにカリスマは必要ないのでは。検討要。カリスマへつなぐことができれば よい。
- (5) コミュニティ内で生まれるグループのメンバーや議論の内向化、硬直化は避ける。グループ間の情報や人の移動をシームレスに結ぶスキルをもつスタッフが必要。
- (6) 支援機関主催のイベントと連携が生まれた(創業支援勉強会、ワーケション イベント等)。
- (7) 各支援機関の起業支援プログラムとの有機的なプログラム連携が必要。情報共有不十分。
- (8) 各支援機関の起業支援への関心は高い。
- (9) 県内で「起業したい」「起業する人を応援したい」という若者、学生が一定程度いる(県外にいても)。3か月で10人超。
- (10) 人材や支援に関する情報が共有可能で「起業者」「支援者」「事務局」の ニーズに対応するWeb上のプラットフォームが必要

#### ① 他コミュニティ拠点(市内外問わず)との連携強化

- ② 支援機関相互のプログラム連携・情報発信
- ③ 起業人材、支援情報の情報共有化
- ④ プロボノ人 材の確保

実証調査

結果

令和4年度

以降の展開

- ⑤ 相談支援を円滑化するWebプラットフォーム構築
- ⑥ HUB機能の充実(特に県外)

### 6. コミュニティ拠点機能実証調査



MIX

Morror I IMMET 2777 - FE SENSE - WOART CENS. BACKSONDERS Live 19.00

MOR (~>> I IMMET 2777 - FE SENSE - WOART CENS. BACKSONDERS Live 19.00

MORROR - M

▲ イベント後の情報交換

▲ オンラインでも配信



▲ イベントのアーカイブ配信

### 起業 したい

- ・学生団体を立ち上げ教育支援活動中(大阪府)
- ・建築デザイン関係で起業したい(神奈川県)
- ・コミュニティデザイン専攻。起業したい。(鳥取県)
- ・デザイン関係で起業したい(島根県)
- ・一次産業で起業したい(島根県)

#### 支援 したい

- ・起業家大学で事務局活動中(大阪府)
- ・学生団体で高校生の教育支援活動中(大阪府) など

▲ MIX創設後に情報交換を始めた大学生

※() 内は在学都道府県。全て県内出身者。

#### 22

など

# 7. 目標指標

- ■松江市総合計画(計画期間:2022~2029)
- ■第4期松江市ものづくりアクションプラン(計画期間:2022~2024)

	2020年度 (現在)	2022年度	2023年度	2024年度
市内新設法人数*1 (社/年)	88社	105社	110社	115社
市内創業相談支援数*2 (件/年)	6 6 8 件	770件	870件	970件



2030年度	
145社	
1, 570	<b>4</b>

# ■MATSUE起業エコシステム推進計画(計画期間:2022~2024)

※地方再生法に基づく内閣府認定地域再生計画



	2020年度 (現在)
起業等事業化件数 (件/年)	0 件
起業等イベント参加人数 (人/年)	0人
起業等相談·支援件数 (件/年)	0件
アントレプレナーシップ教育参加人数 (人/年)	0人

2022年度	2023年度	2024年度
2件	3件	4 件
1,000人	1, 100人	1,200人
300件	400件	500件
4 0人	5 0人	6 0人

(注) 市が関わった事業の数値

<sup>\*1:</sup>国税庁統計 \*2:市、県、商工会議所、商工会等支援機関の計